



世界のFMC動向シリーズ No.4 (フランス)

～France Télécomなど数社が「ワンフォン」サービスを開始、SFRは「ホームゾーン」サービスの提供へ～

🕒 記事のポイント

サマリー フランスでは2006年に相次いでワンフォン型FMCサービスが開始されている。2006年6月、Neuf Cegetelが「TWIN」の提供を開始したのに続いて、10月にはFrance Télécom (FT) の「unik」が市場に登場した。さらにFreeも10月からデュアルモード端末を提供している。これらのサービスでは、GSMと無線LANの両方に対応するデュアルモード端末を、屋外では携帯電話として、また自宅からはIP電話として利用することができる。

一方、携帯電話事業者SFRは異なる戦略をとり、自宅近辺からの携帯電話通話料を定額とするサービス「Happy Zone」を2006年10月から一部の地域で開始し、2007年には全国に拡大する計画をたてている。

主な登場者 France Télécom Orange Neuf Cegetel Iliad Free SFR

キーワード FMC FMS モバイル ブロードバンド コンバージェンス

地域 フランス

執筆者 KDDI総研 制度・政策調査室 服部 まや (xma-hattori@kddi.com)

1 フランスにおけるFMCサービス概況

フランスでは、France Télécom (FT) がビジネス向けを中心に固定と携帯を組み合わせたサービスを2004年から提供しているが、英国の「BT Fusion」に代表される「ワンフォン」型(1台の端末で固定・携帯の両方のサービスが利用可能)のFMCサービスが登場したのは2006年に入ってからである。

2006年6月、代替事業者最大手のNeuf Cegetelが「TWIN」の提供を開始したのに続き、FTが10月に「unik」を開始した。また同じく10月にはFree (Iliad傘下のISP)もデュアルモード端末の提供を始めるなど、2006年にはGSMと無線LAN(以下

WiFi) のデュアルモード端末による一般向けFMCサービスが相次いで登場した。

一方、シェア第2位の携帯電話事業者SFRは、こうした一連の動きに対抗する形で、2006年10月にホームゾーンサービス「Happy Zone」のパイロットサービス開始を発表した。SFRのサービスはいわゆるFMS (Fixed-Mobile Substitution : 携帯電話による固定電話代替) サービスと呼ばれるもので、ドイツではすでにO2 Germany、T-Mobile、Vodafone D2などの携帯電話事業者が提供している[☞] (脚注)。

本稿では、FTを始めとするフランス事業者のFMCサービスの現況について、主としてワンフォン型サービスを中心に紹介する。

【図表1】 フランス通信市場概観

市場規模	<ul style="list-style-type: none"> 400 億ユーロ (約 6 兆円[☞] (換算率)) (2005 年) (内訳) 携帯電話サービス : 40% 固定電話収入 : 30%、インターネット収入 : 8%、その他 (機器販売、専用線等) : 22%
固定電話サービス	<ul style="list-style-type: none"> 加入者数 (2006 年 6 月) : 3,740 万 (うち IP 電話 484 万) アンバンドル回線数 (2006 年 6 月) : 336 万 (うちフルアンバンドル回線 112 万) (表注) 主要事業者 : France Télécom (FT)、Neuf Cegetel、Tele2France
インターネットサービス	<ul style="list-style-type: none"> 加入者数 (2006 年 6 月) : 1,420 万 (うちブロードバンド 1,110 万→内訳 ADSL : 1,047 万、ケーブル : 63 万、その他 0.5 万) 主要事業者 (ブロードバンド市場シェア/2005 年末) : FT/Orange (48%)、Iliad/Free (17%)、Neuf Cegetel (12%)、その他の ADSL 事業者 (17%)、ケーブル事業者 (6%)
携帯電話サービス	<ul style="list-style-type: none"> 加入者数 (2006 年 9 月) : 4,980 万 普及率 () : 82.6% 携帯電話事業者 (国内市場シェア/2005 年末) : Orange France (46%)、SFR (36%)、Bouygues Telecom (17%)

(フランスの規制機関ARCEPのデータをもとにKDDI総研作成)

(表注) : フルアンバンドル (フランス語では「dégroupeage total」) は、代替事業者が既存事業者のメタル回線全体を借り受けてADSLサービス等を提供する形態。いわゆる日本のドライカップに相当する。ラインシェアリングに相当する「dégroupeage partiel」では、既存事業者回線の高周波部分だけを借りて代替事業者がADSLを提供する。



☞ (脚注)

ドイツ携帯電話事業者のFMSサービスについては、KDDI総研R&A 2006年8月第1号 "世界のFMC動向シリーズ No.2 (ドイツ) ~Deutsche TelekomとVodafoneのサービスを中心に~" を参照。

☞ (換算率)

1ユーロ=149.30円 (2006年11月1日東京市場TTMレート)

2 FTのFMCサービス

2-1 デュアルモード端末「unik」

2005年6月に発表した3ヵ年事業計画「NExT」に基づき統合事業者を目指しているFTは、2006年6月、その一環としてブランド統一に着手し、国内固定網を除く同社の全サービスを「Orange」のブランド名で提供していくこととした。また同時に一連の新サービスを発表した^④、その中で一般ユーザー向けFMC端末「unik」の提供計画を明らかにしていた^④(脚注)。その後、FTは9月25日の報道発表で、「unik」の商用サービスを10月5日から開始すると述べ、サービスの詳細を発表した。

2-1-1 「unik」の概要

「unik」は家庭内ではWiFi経由で自動的に「Livebox (FTのワイヤレスブロードバンドモデム)」に接続され、IP電話として機能し、外出先ではOrangeのGSMネットワークにアクセスして携帯電話として利用できるGSM/WiFiデュアルモード電話機である(【図表2】参照)。

Liveboxには6台までのunik端末を登録することができ、3台まで同時に通話することができる。また他のユーザーのLivebox経由でも通話することが可能であり、将来的にはOrangeの公衆無線LAN (Orange WiFi) ホットスポットからも利用できるようになる。なお「unik」の電話番号は06から始まる携帯電話の番号となっている。

「unik」は、UMA (Unlicensed Mobile Access) 技術により、ネットワークの自動切り替えと通話のハンドオーバーを可能としている。自宅のLivebox経由で発信した通話は無線LANの通信エリア外に出て行っても自動的にGSMに切り替わり、途切れることなく通話を続けることができる。

「unik」と同様なサービスはすでに英国BTが「BT Fusion」として2005年6月に商用サービスを開始しているが、当初はGSMとBluetooth (将来的にはWiFi) のデュア



④ (脚注)

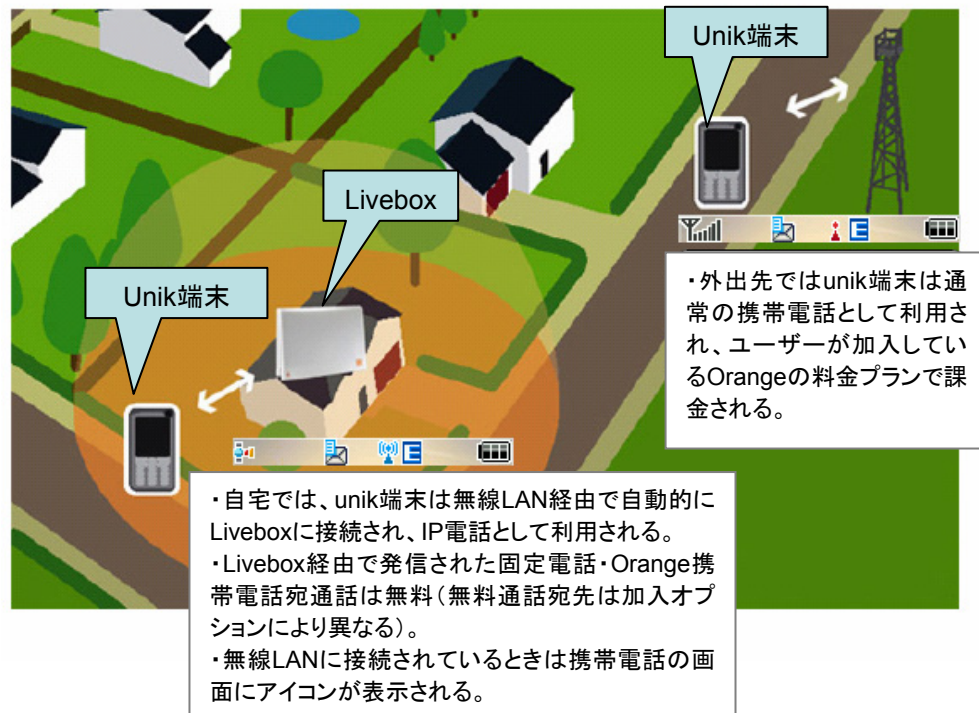
KDDI総研R&A 2006年8月第2号 "France Télécom、コンバージェンスサービス提供へ向けてサービスブランドを「Orange」に統一" を参照。

ルモード端末でスタートした^④(脚注)。

FTでは「unik」は真の意味でのコンバージェンスサービスであるとしており、「ワンフォン、ワンナンバー、単一アドレス帳、単一ボイスメール、単一請求書」をセールスポイントとしている。

FTは、フランス市場における競合他社のワンフォンサービスでは通話中にWiFiの通信エリアから出ると通話が途切れてしまうのに対し、unikではネットワークの切り替えが自動的に行なわれ通話が途切れないこと(ハンドオーバー)、また固定電話宛だけでなくOrangeに限定されるものの携帯電話への通話も無料になることなどを他社サービスに対する優位性として強調している。

【図表2】「unik」の概要



(FTプレゼンテーション資料に基づきKDDI総研作成)



④ (脚注)

BTは2006年12月14日にGSM/無線LANデュアルモード端末による中小企業向けサービス「BT Fusion WiFi for Business」を開始した。端末はunikと同じNokia 6136、Motorola A910、Samsung P200 (2007年1月投入予定)で、ユーザーのオフィスのほかBTのホットスポット「BT Openzone」からも利用できる。携帯電話、固定電話、ブロードバンドのトリプルプレイパッケージ「BT Business One Plan」として提供され、月額料金は15ポンドからとなっている。

「unik」はOrangeの携帯電話サービスのオプションとして提供され、10万ユーザー限定とされている。「unik」の利用には、インターネット環境としてOrangeのブロードバンドサービスへの加入とLivebox の設置が必要なほか^{※(脚注)}、Orange携帯電話への加入と「unik」オプションへの加入、さらにunik対応端末(【図表3】)が必要となる。

すでにOrange携帯電話のユーザーでこれらの利用条件を満たしてさえいれば、「unik」に自分のSIMをセットするだけですぐにサービスが利用でき、これまでの携帯電話番号を引き続き使用できる。

2-1-2 「unik」端末

unik端末は、10月のサービス開始当初は2種類(Nokia 6136、Samsung P200)だが、11月から「Motorola A910」が加わり、3種類となる。端末価格は99ユーロ(約14,800円)からとなっている。端末機種は2007年にはさらに追加される予定である。

【図表3】 unik端末

	Nokia 6136	Samsung P200	Motorola A910
端末機種			
提供開始時期	2006年10月	2006年10月	2006年11月
最適アプリケーション	音楽・ゲーム	TV/ビデオ	スケジュール/メール
価格	99ユーロから		

(FT資料をもとにKDDI総研作成)



※(脚注)

Orangeのブロードバンド(ADSL)サービスは、通信速度に応じて、①「1 mégamax」、②「8 mégamax」、③「18 mégamax」の3種類あり、月額料金は12ヶ月契約を条件に、①24.90ユーロ、②29.90ユーロ(最初の3ヶ月間は24.90ユーロ)、③34.9ユーロとなっている。いずれの料金プランにもADSL TVが含まれている。また、Liveboxはレンタルで月額3ユーロである。

2-1-3 「unik」の料金

「unik」オプションの料金は、【図表4】のとおり月額10ユーロ（約1,500円）と22ユーロ（約3,300円）の2種類があるが、いずれもユーザーがOrangeの通常料金プランに加入していることが条件となる^④（脚注）。

unik端末からLivebox経由で発信された通話はIP電話となり、国内通話は無料となる（加入するオプションに応じて無料となる宛先が異なる）。

【図表4】「unik」オプションの料金

オプション	固定電話宛通話無制限	固定・携帯電話宛通話無制限
月額料金	10ユーロ	22ユーロ
内容	Livebox経由unik端末発信 固定電話*宛通話料が無料 (時間帯制限なし) *フランス本土の固定電話宛	Livebox経由unik端末発信 通話料**が無料 (時間帯制限なし) **フランス本土の固定電話宛 およびOrange携帯電話宛

(FT資料をもとにKDDI総研作成)

2-1-4 今後の展開計画

FTでは、10月5日のフランス本土での「unik」サービス開始に続いて、他の欧州における主要な事業展開国でもデュアルモード端末の提供を始める。

計画では、オランダ（10月17日：サービス名「unique」）、英国（2006年11月：サービス名「unique」）、スペイン（2006年12月：サービス名「unico」）、ポーランド（2007年内：サービス名「unik」）となっている。

またビジネス向けの「unik for business」は2006年11月23日から国内での提供が開始され、12月5～7日に開催された「Mobile Office 2006」において展示・紹介された。



④（脚注）

「Classique」、「Intense」、「pro」のほか、「initial」、「Click」、「forfait partagé」、「forfait ajustable」、「Fnac mobile」の各料金プラン加入者。現在のところ、通話料上限設定プラン（M6 mobile, Zap）やプリペイド（mobicarte）、compte mobile Orangeの加入者は、unikオプションに加入できない。

「unik for business」は従業員数50人以下（携帯電話契約数15回線以下）の中小企業向けオプションサービスで、料金（税抜）は1回線当たり月額15ユーロ（約2,200円）、unik端末から自宅や事業所のLiveboxまたはLivebox pro経由で発信されたフランス国内固定電話宛および企業グループ内携帯電話（同一回線契約）宛の通話は無料となる。

2-2 FTのその他のFMCサービス

FTはビジネス向けを中心に固定・携帯統合ソリューション、請求書統合サービスなどを提供している。なお、ビジネス向けのサービスは、2006年6月のブランド統一後、Orange Business Servicesが担当している。Orange Business Servicesは、従来のFTの法人部門、Orangeの法人部門、およびEquant等の子会社が統合されたものである。

代表的なビジネス向け統合ソリューションとしては「Business Everywhere」や「Business Talk Pack」などがあげられる。また個人向けには、家庭の固定電話から家族の携帯電話（1～3台）宛通話が無制限となる「Family Talk」が2005年から提供されている。

・「Business Everywhere」

「Business Everywhere」はモバイルワーカー向けのモビリティソリューションで2004年から提供されている。「Business Everywhere」では、外出先からノートパソコンやPDA、携帯電話により企業網へアクセスすることができる。グローバルな規模で単一の契約窓口と統合請求を可能にし、事務所外からのイントラネットやメールボックスへのアクセス手段として最適なネットワークを自由に選択できる。利用可能なネットワークは、無線LAN（ホットスポット）、3G、Edge、ADSL、GPRS、固定電話回線等である。

フランス国内のユーザー数は2006年6月末現在、44.3万で、官公庁や大企業の利用が多い（厚生省、フランスガス、Universal Music Groupなど）。フランスのほか、ポーランド、ベルギー、スペイン、ルーマニア、スロバキア、スイス、英国、米国などで多国籍企業ユーザーに利用されている。

・「Business Talk Pack」

中小企業向けの固定・携帯統合ソリューションで、携帯電話5台以上、1～4カ所のオフィスを持つユーザー向けである。特別な機器は不要で、PABXに単純なプログラミングを行うだけでサービスが利用可能となる。

このサービスでは、1つの電話番号（代表番号）と共通ボイスメールが提供され、事業所内の通話（固定電話・携帯電話）と10箇所まで登録できる外部の電話番号への通話料が割引となる。

2006年6月には「Business Talk classic」(事業所数4ヵ所以上の中小企業向け。平均で事業所数8ヵ所、携帯電話60台)および大企業向けの「Business Talk premium」(平均で事業所数30ヵ所、携帯電話600台)が開始された。

2-3 2006年秋発表の新サービス

「コンバージェンス」はNEXTにおけるFTの主要な戦略である。「unik」の商用化とほぼ同時に「2006年秋のコレクション」と銘打って、2006年10月以降提供を開始する一連の新サービスが発表されたが、そのテーマは「コンバージェンス」「ハイデフィニション」「ビジネス」の3点であった。

コンバージェンスのテーマで発表されたサービスは次のとおりである。

- ・ 固定・携帯デュアルモード端末「unik」(2006年10月5日商用サービス開始)
- ・ 「Mobile & connecté」: 携帯電話とブロードバンド・アクセスのマルチプレイサービス
- ・ 統合ボイスメール: 固定電話もインターネット経由でも同一のボイスメール
- ・ 「Mon PC à distance」: PCと携帯電話の統合オプション

また、ハイデフィニション(高画質・高品質)をテーマにしたサービスとしては、高画質のADSLテレビとモバイルテレビサービス、高品質IP電話が発表された。

さらに「ビジネス」サービスとしては、ビジネス用のデュアルモード端末「unik for business」、「Business together」、「PC/mobile synchronization」および「Business Everywhere」の拡張オプションが発表されている。

3 Neuf CegetelのFMCサービス

Neuf Cegetel Groupは、2005年8月に固定通信事業者neuf telecomとCegetelの合併により誕生した通信事業者で、個人・法人・キャリア向けに通信サービスを提供している。

個人向けサービスについては、合併後も引き続き「Neuf」のブランドを継続して使用しており、固定電話、ブロードバンド・アクセス(ADSL)、IP電話、ADSL TVのマルチプレイサービスを提供している。さらに2006年4月にはMVNOとして携帯電話サービス(Neuf Mobile)も開始した。なお携帯電話サービスについては、2005年にSFRとMVNO契約を結んでおり、法人向けサービスから提供を開始している。

2006年6月時点の個人ユーザー数は300万、そのうちADSLユーザーは140.7万で、

ADSL市場ではOrange (FT)、Free (Iliad) に次いでシェア第3位となっているが、2006年9月にAOL Franceの買収を発表し (10月に買収完了)、AOL Franceの50.5万ユーザーを加えたことによりユーザー数は200万を超えて、Freeとほぼ肩を並べるに至った (【図表5】 参照)。

【図表5】 フランス主要事業者のADSLユーザー数と市場シェア

事業者	ADSLユーザー数 (2006.9)	市場シェア
FT/Orange	550万	50.3%
Iliad/Free	207.6万	18.9% (表注)
Neuf Cegetel	202万	18.5% (表注)

(表注) FT発表の数値より算出

(各事業者の業績発表資料に基づきKDDI総研作成)

3-1 デュアルモード端末「TWIN」

Neuf Cegetelは、2006年5月30日、フランス初のGSM/WiFiデュアルモード端末「TWIN」を6月中旬から提供開始すると発表した。Neuf Cegetelによれば、携帯電話による通話の約30%は自宅から発信されており、「TWIN」を使うことで携帯電話料金を10~30%節約することができるという。

なお、Neuf Cegetelは「TWIN」の商用化に先立ち、2005年11月から「Beautiful Phone」のプロジェクト名でGSM/WiFiデュアルモード端末によるFMCサービスの実験を行っている。

3-1-1 TWINの概要

「TWIN」は、自宅ではNeuf Box (Neuf Cegetelのブロードバンド無線ルーター) からWiFi経由でブロードバンドに接続してIP電話として利用でき、固定電話料金での通話が可能となる。特にNeuf Cegetelのフルアンバンドル加入者^④(脚注)であれば同社のIP電話料金が適用され、国内固定電話と一部の国際電話 (EU加盟国、米、カナダなど約30カ国宛) の通話料は無料となる。



④ (脚注)

フルアンバンドルの場合、加入者は代替事業者 (ここではNeuf Cegetel) が提供するトリプルプレイなどのサービスに直接加入する形態となり、フランステレコムとの電話契約は解除する。

通話のハンドオーバーは提供されておらず、通話中にWiFiのサービスエリア外に移動すると通話が途切れる。「TWIN」はまた、外出先の同社ホットスポット（「communauté Neuf WiFi」）でもIP電話としての利用が可能である。WiFiのエリア外では通常のGSM携帯電話として利用できる。

【図表6】 TWIN端末



(出所：Neufホームページ)

Neuf Cegetelは当初、同社加入者を対象に1万台限定で「TWIN」端末を提供すると発表した。端末は6月中旬からNeufのウェブサイトから199ユーロ（約29,700円）でオンライン販売され、7月中旬からは、Neuf Mobile（MVNO）の携帯電話サービスとのセット加入を提供開始し、この場合、端末は1ユーロで提供された。

3-1-2 「TWIN」の新バージョン投入

Neuf Cegetelは2006年11月23日に「TWIN」のバージョンアップを発表し、誰でもアクセス可能なマルチメディア端末として提供されるようになった。

<対象ユーザーの拡大>

「TWIN」は、6月のサービス開始当初はNeuf Cegetelのフルアンバンドル加入者に限定されていたが、新バージョンではWiFi対応の機器を所有する全てのブロードバンドユーザーが利用可能となった。

新「TWIN」は、Neuf Boxだけでなく全てのWiFi対応ブロードバンドルーターに対応しており、どのISPに加入していても構わない。また「TWIN」はNeuf Mobileのサービスに統合され、端末価格はサービス加入とセットで49ユーロ（約7,300円）のところ、2007年4月30日までのプロモーションとして1ユーロで提供されている。

Neuf MobileのTWIN料金プランは無料通話分数に応じて、26.90ユーロ（約4,000円）から96.90ユーロ（約14,500円）までの9種類となっている（【図表7参照】）。

なお、Neufの固定電話サービス加入者でマイライン登録をしているNeuf Mobileのユーザーには「Famille Neuf」オプションが無料で付く。このオプションは家庭の固定電話と家族のNeuf Mobile携帯電話間の通話がかけ放題となる（携帯電話は1家族に付き5台まで登録可）。TWINの場合もこのオプションが利用できる。

【図表7】 Neuf Mobileの「TWIN」プラン

無料通話 分数	1H30	2H00	3H00	4H00	5H00	6H00	8H00	10H00	12H00
月額料金* (ユーロ)	26.90	29.90	34.90	39.90	44.90	49.90	62.90	80.90	96.90

*24ヵ月契約

(出所：Neufホームページ)

<マルチメディア機能の強化>

Neuf Cegetelはまた、「TWIN」のマルチメディア関連サービスを強化し、WiFiモードでのTV/ラジオ・サービスを11月から開始した。「TWIN」から、30あまりのTVチャンネルやウェブラジオが無料で視聴可能である。

またTWIN Portalから各種の情報サービスやNeufメッセージボックスへのアクセスが可能である。

<ホットスポット数の拡大>

Neuf Cegetelは同社の公衆無線LAN「Communauté Neuf WiFi」に関して複数の事業者と提携している。

FON[☞]（脚注）とのパートナーシップにより、Neuf Cegetelのユーザーは世界中のFONのホットスポット（2006年4月25日の契約締結時点の発表で、世界で32,000カ所、フランス国内では2,500以上）が利用できる。またSNCF（フランス国鉄）との契約により50あまりの主要駅構内のホットスポットのほか、Adaël Wirelessともパートナー契約を結んでフランス国内のカフェやレストランなど約130カ所のホットスポットが利用可能となっている。



☞（脚注）

FONはスペインのベンチャー企業で、個人宅などの無線LANアクセスポイントを開放・共有し、世界中に無線LANインフラを張り巡らそうというプロジェクトを2005年11月に立ち上げた。欧州を中心にサービスを拡大しており、会員数は約16万人、2006年12月には日本へも進出した。FONにはSkypeやGoogleも出資している。

さらに同社は「TWIN」新バージョンの投入と合わせてホットスポット数を拡大した。2006年11月に、新たにOzoneおよびMeteor Networksともパートナー契約を締結し、同社のホットスポット数は2006年11月現在で、世界で15万、フランス国内では1万以上となっている。

3-2 Neuf Cegetelのその他のFMCサービス

Neuf Cegetelはすでに2005年6月から企業向けFMCソリューション「9office」を提供しており、2006年2月には中小企業向け「9pass」を開始している。

また2006年4月からは、フランス初のクアドルプルプレイとうたって、同社の個人ユーザー向けに携帯電話サービス「Neuf Mobile」を開始すると同時に、FMCサービス「Neuf Talk Mobile」を開始した。

「Neuf Talk Mobile」は、SIP規格のWi-Fi対応スマートフォンやPDA、デュアルモード端末などにNeufのウェブサイトからソフトウェア（無料）をダウンロードすることにより、自宅からはWiFi経由でNeuf Boxに接続し、また外出先ではホットスポットのアクセスポイントに接続して、これらの端末をIP電話として利用することができるというものである。「Neuf Talk Mobile」はPDAやスマートフォン等を所有しているハイエンドユーザー向けのサービスであるが、デュアルモード端末「TWIN」の導入によりコンシューマーにまで対象を拡大した形となる。またNeuf Cegetelでは、PCにソフトウェアをインストールし、どこからでもIP電話として利用できるサービス「Neuf Talk」も提供済みである。

4 FreeのFMCサービス

Freeは新興通信事業者Iliad Group傘下のISPで、2006年9月のADSLユーザー数は208万、ADSL市場ではFT/Orangeに次ぐシェアを持つ。1999年に無料ISPを開始、2003年にはIP電話とADSL TVを開始して、フランス初のトリプルプレイを提供している。

親会社のIliad Group（1991年設立）は、グループ企業を介して、ブロードバンドFree)、固定電話（Onetel、Iliad Télécom）、プリペイドカード（Kertel）などの通信サービスを提供しているが、ブロードバンドが事業の中心となっている。また、傘下のIFWはWiMAXの全国免許を所有している唯一の事業者である。

■ Freeのデュアルモード端末

Freeは2006年10月からGSM/WiFiデュアルモード端末によるワンフォンサービスを開始した。このデュアルモード端末は、同社が2006年4月から導入し、すでに30万台が設置されている新型の多機能セットトップボックス「Freebox HD」にWiFi経由で接続され、IP電話として利用できる。WiFiのカバーエリア外ではGSM電話機として利用するが、Freeでは携帯電話事業は提供していないため、いずれかの事業者の携帯電話サービスに加入する必要がある。また通話のハンドオーバーは提供されていない。

FreeはWiFi/GSMデュアルモード端末のほか、WiFiにのみ対応する端末の2種類を同社のウェブサイトで販売しており、デュアルモード端末の販売価格は199ユーロ（約29,700円）、WiFi専用端末は59ユーロ（約8,800円）となっている（それぞれ送料として4.99ユーロが別途加算）。

これらの端末から、自宅あるいは他のFreebox経由で発信された通話にはFreeのIP電話料金が適用され、フランス国内および世界28カ国へは無料となり、その他の国にも安い料金で通話することができる。Freeのトリプルプレイサービスは月額29.99ユーロ（約4,500円）で提供されているが、これらの端末の利用には特に付加料金は必要ない。

なお、Freeのデュアルモード端末はSIPベースのもので、イタリアのPirelli Broadband Solutionsが供給している。

【図表8】 Freeのデュアルモード端末



(出所：Freeホームページ)

5 SFRのFMSサービス

5-1 ホームゾーンサービス「Happy Zone」

上記の「unik」や「TWIN」などのワンフォンサービスは固定電話事業者によるFMCへの取り組み例であるが、フランス第2位の携帯電話事業者SFRは、ドイツの携帯電話事業者の事例に見られるようなFMS型サービスで携帯電話による固定電話トラヒックの取り込みを狙う。

SFRは、2006年10月4日の報道発表において、同社の「モバイルセントリック」戦略を明らかにし、自宅からの携帯電話通話料を定額とするホームゾーンサービス「Happy Zone」の提供開始とともに、Tele2 Franceの固定電話・インターネット事業の買収完了を発表した^④(脚注)。

「Happy Zone」は、ユーザーの自宅およびその周辺の「生活ゾーン」において、携帯電話発国内固定電話宛の通話がかかけ放題となるフランス初のサービスである。利用時間帯に制限はない。「Happy Zone」は通常のSFR料金プランのオプションとして提供され、料金は月額15ユーロ(約2,200円)である。ただし無料通話2時間以上の料金プランに加入している必要があり、また、個人での利用に限られる。

「Happy Zone」は家庭内でも携帯電話網を利用しており、WiFiを利用するワンフォン型サービスと異なり、ユーザーが新たに対応端末を購入したり、ブロードバンドサービスに加入したりする必要はない。普段使っている携帯電話を継続して利用でき、シンプルであることが、ユーザーのニーズに即したサービスであるとSFRでは述べている。

「Happy Zone」のエリア内において携帯電話から電話をかけるときには特有の発信音がするため、ユーザーはHappy Zone料金が適用されていることがわかる。エリア外での発信通話にはこの発信音は聞こえず、自分が加入している通常の携帯電話料金となる。



④ (脚注)

Tele2 Franceはスウェーデンの総合通信事業者Tele2のフランス子会社。固定電話サービスとインターネットサービスに加え、OrangeとMVNO契約を結んで携帯電話サービス「Tele2 Mobile」を提供しているが、固定電話とインターネット事業のみがSFRへの売却の対象となった。

SFRは2006年10月4日から、まず2つの県^④(脚注1)において「Happy Zone」サービスを開始し、2007年にはフランス全国で提供する予定となっている。

5-2 ADSL市場への参入

SFRは、Tele2 Franceの固定電話・インターネット事業を買収し、ADSL市場へ参入することとなったが、これは「Happy Zone」の開始とともに顧客のニーズを中心とする同社の戦略の一環であるという。

Tele2 Franceの固定網顧客300万とADSLユーザー30万を取得したSFRは、2007年第1四半期にはSFRブランドでのADSLサービスを開始する計画である。

SFRはNeuf Cegetelの大株主であるが、今回のADSL事業参入でADSL市場ではNeuf Cegetelと競合することになる。しかし、SFRによれば、同社はNeuf Cegetelの株主であると同時にお互いにパートナー関係にある。すなわち、Neuf CegetelがSFRの携帯電話回線を借り受けMVNOとなっている一方で、SFRは自社ブランドでのADSL提供にあたり、Neuf CegetelのFVNO (Fixed Virtual Network Operator) となるからだという (Neuf Cegetelは旧Tele2 FranceにADSLアクセスを卸売している)^⑤(脚注2)。

また、SFRとNeuf Cegetelの両社が共同出資するSHD社は、WiMAX地域免許 (Ile-de-France 地域および Provence-Alpes-Côte d'Azur 地域) を取得している。

なお、Vevendi傘下のSFRは、もともとCegetelに65%出資していたが、2005年8月にneuf telecomとCegetelとが合併する際、固定電話事業をいったん切り離した経緯がある。具体的には、Cegetel株の残り35%をSNCFから買収して持分を100%とし、合併後の新会社の株式28.5%と引き換えにCegetel株をNeufに売却した。SFRはその後、Neuf Cegetelへの出資率を段階的に引き上げており、2006年10月のNeuf Cegetel上場後には40.6%を出資する筆頭株主となっている (【図表9】参照)。



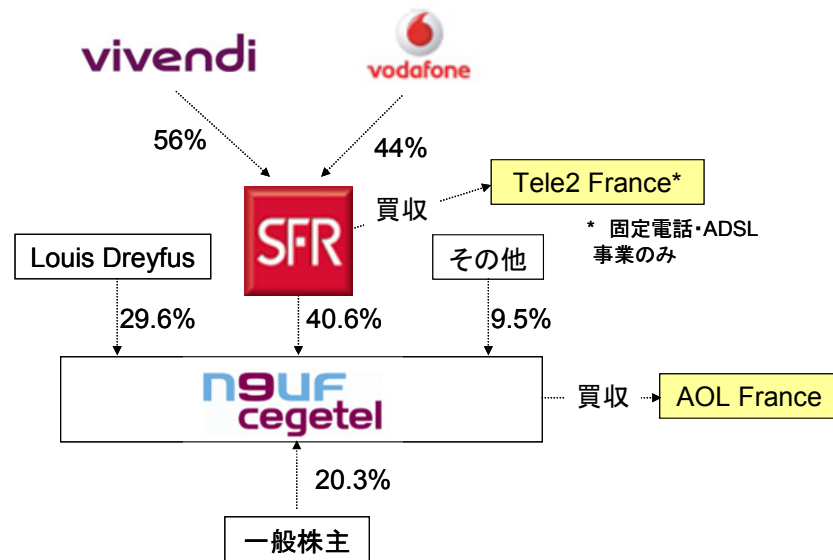
^④(脚注1)

Bouches du Rhône県 (県庁所在地はMarseille) および Haute Garonne県 (県庁所在地はToulouse)

^⑤(脚注2)

SFR資料 "Nos convictions, notre vision" (2006.11) による

【図表9】SFRとNeuf Cegetelを巡る出資関係 (2006年10月現在)



(各種資料に基づきKDDI総研作成)

📖 執筆者コメント

世界的に見られる傾向であるが、フランスの電気通信市場においても固定電話収入の低下傾向が続き、携帯電話とブロードバンドへのシフトが顕著である。2004年に固定電話収入を超えた携帯電話サービス収入は全体の40%に達し、通信市場に占める割合は年々増加している。固定電話収入は年々減少しており、固定電話のトラフィックも減少傾向にあるが、急速に利用が拡大しているIP電話のトラフィックは大幅に増加している。また、2005年には全世帯の18%が固定電話を持たず、そのうち16%は携帯電話だけを所有しているというデータからも固定電話離れが進んでいることが伺える。

一方、フランスのブロードバンド市場は近年目覚ましい成長を遂げている。ブロードバンド加入者数は、2005年12月末で945万、2006年3月末には1,050万となり、6月末には1,100万を超えた。IP電話・インターネット・TVのトリプルプレイサービスは2003年から提供されており、2006年に入り携帯電話サービスを加えたクアドルプレイ提供の動きが加速している。ワンフォンサービスもこうした市場背景で登場してきた。

フランスにおけるワンフォンサービスは始まったばかりであり、ユーザーの反響はまだわからない。FTは当面はunikのユーザー数を限定しているが、コンバージェンスを重点戦略として推進していることから、かなり積極的にマーケティングしていくのではないと思われる。またNeuf CegetelはTWINの販売対象を自社ユーザー以外にも拡大している。各社がどの程度ユーザーを獲得できるのか、今後の動向を引き続きフォローしていく必要があるだろう。

また、現在は携帯電話事業を提供していないIliadの動向も注目される。Iliadは2007年にFTTHの導入を計画しており、ADSLでそうであったようにFTTHでも安価なサービスで市場をリードすることを目指している。さらに2006年10月5日に開始されたARCEPによるパブリックコンサルテーションの中で、フランス第4のUMTS (3G) 免許の獲得に関心を示している。また同社はWiMAXの全国免許も保有している。Iliadが今後どのような戦略をとってくるのか、注視していきたい。

📖 出典・参考文献

ARCEPホームページ (<http://www.arcep.fr/>)
 France Télécomホームページ (<http://www.francetelecom.com/fr/>)
 Orangeホームページ (<http://www.orange.fr/>)
 Orange Business Servicesホームページ (<http://www.orange-business.com/>)
 Neuf Cegetelホームページ (<http://www.groupeneufcegetel.fr/>)
 Neuf TWINホームページ (<http://offres.neuf.fr/offres/telephoniemobile/TWIN.html>)
 Iliadホームページ (<http://www.iliad.fr/>)
 Freeホームページ (<http://www.free.fr/>)
 SFRホームページ (<http://www.sfr.fr/>)
 その他各種報道資料

【執筆者プロフィール】

氏 名：服部 まや (はっとり まや)

所 属：KDDI総研 制度・政策調査室

専 門：欧米・アジアを中心とした諸外国の通信市場に関する調査研究

最近の主な研究テーマ/レポート：

- ・欧米におけるMVNOの動向
- ・ローミング事業に関する調査研究
- ・タイ携帯電話市場の最近の動き (KDDI総研R&A 2006年2月号)
- ・世界のFMC動向シリーズ No.1 (英国) ~BT Fusionの最近の動向~ (KDDI総研R&A 2006年7月第1号)
- ・France Telecom、コンバージェンスサービス提供へ向けてサービスブランドを「Orange」に統一 (KDDI総研R&A 2006年8月第2号)
- ・フランスのMVNO~多様な企業が次々と新規参入~ (KDDI総研R&A 2006年11月第1号)

Email : xma-hattori@kddi.com

電話 : 03-6716-1164